２－３施策実施効果の確認

施策の実施効果を確認するため、エコパークゾーン整備基本計画に位置づけられている各ゾーンの「整備の方向」に基づき現状を整理するとともに、アイランドシティ護岸等の状況も併せて整理しました。その結果は表－３のとおりです。

表－３　各ゾーンの整備の方向と現状

ゾーン名		御島ゾーン	香住ヶ丘ゾーン	和白干潟ゾーン	海の中道ゾーン
整備の方向と現状	整備の方向－１	特色ある御島の歴史を感じ、散策や憩える空間として整備する	砂浜、磯浜などの自然海岸や緑地と触れ親しむ空間として整備する	水質・底質の保全や改善とともに豊かな生態系の保全創造を図る空間として整備する	砂浜にふれ親しみ、白砂青松を感じさせるレクリエーション空間として保全する
	現状	・多くの人が散策に訪れ親水空間としての機能が向上し、養浜後はアサリが多く見られている（「護岸整備事業の効果」を参照） ・海岸へ打ち上げられたアオサにより悪臭が発生していることがある	・老朽化した護岸を階段護岸に整備しており、親水空間としての利用がみられ、潮干狩りも行われるようになったている（「護岸整備事業の効果」を参照）	・下水道関連施策以外に、水質・底質の改善は実施されていない ・一部で浮泥層が厚い ・夏季には貧酸素が発生している ・野鳥の飛来数が減少傾向にある ・塩沼地植生は保全されている	・海の中道海浜公園側は自然海岸をそのまま保全しており、公園利用者のレクリエーションや潮干狩り等に利用されている
	整備の方向－２	野鳥や海生生物の生息環境の保全や、水質・底質の改善を行う		野鳥などの多様な生物が生息する環境を活かして、自然を観察し、ふれあえる空間として整備する	
	現状	・作澪で地形を一部掘削したことにより、河口部の海水交換が促進されている ・覆砂区域の底質は、COD、粘土・シルト分は覆砂前と比べると低い状態が続いている。強熱減量、硫化物は、覆砂後すぐは減少したが、覆砂の4年後あたりから覆砂前と同程度のレベルに戻っている ・覆砂後は、底生生物の種類数が大幅に増加し、現在でもその効果が続いている。底生生物の個体数も概ね覆砂前より多い状態である ・魚類等はカレイやエイ、ナマコ、ウニ、タイラギなど多様な生物が見られている ・海藻類はオゴノリが繁茂し、周辺ではアマモの自生も見られている		・年間をとおしてバードウォッチングや干潟観察が行われており、海の広場には環境学習などをサポートするために簡易便所や倉庫を設置している ・干潟環境に関する啓発看板設置など、市民団体との共働事業が行われている ・春の潮干狩りシーズンは賑わっている	
	整備の方向－３			海岸の利用のしやすさや安全性の向上など、生活環境の改善を図る空間として整備する	
	現状			・アオサ回収により生活環境の改善が図られている ・老朽化した塩浜の護岸は、安全性の確保とともに、カニや鳥などの生物の生息環境に配慮した改修を行った（「護岸整備事業の効果」を参照）	
アイランドシティ護岸等の状況		・外周護岸は石積み護岸になっており周辺ではタマハハキモクなどの海藻が生育し、魚類などの生息もみられている	・外周護岸は石積み護岸になっており、周辺ではタマハハキモクなどの海藻が生育し、魚類などの生息もみられている ・一部にはタイドプールも整備されており、カキなどの付着がみられている	・外周護岸は石積み護岸になっており、周辺ではタマハハキモクなどの海藻が生育し、魚類などの生息もみられている ・野鳥公園計画地の前面は、野鳥公園と一体となった海岸整備を行う可能性を考慮して、直立護岸のままとなっており、藻場が貧弱である	・外周護岸のほとんどは石積み護岸になっており、周辺ではタマハハキモクなどの海藻が生育し、魚類などの生息もみられている ・西端の一部は直立護岸で、ワカメなどの生育がみられている

また、エコパークゾーンで行われた護岸整備事業について、環境面の効果を表－４に示します。

表－４　護岸整備事業の効果

整備場所		香椎浜護岸 （御島ゾーン）	御島崎～片男佐海岸 （御島ゾーン）	香住ヶ丘護岸 （香住ヶ丘ゾーン）	和白塩浜護岸 （和白干潟ゾーン）
事業方針		歴史性を活かし、自然石石積護岸とする。野鳥保全のため急傾斜とし海域への立ち入りがしにくい構造とする	歴史性を活かした海岸整備。海生生物の生息環境に配慮し自然石の石積護岸と養浜を行う	斜面崩落区間の安全性向上のため護岸を設置。海岸へのアクセス性を高め景観にも配慮して緩傾斜自然石護岸とする	老朽化護岸の再整備を行い、海岸の安全性の向上を図る。護岸は生態系にも配慮した石積護岸とする
整備内容		遊歩道、護岸、公園	遊歩道、護岸、養浜	遊歩道、護岸	遊歩道、護岸、植栽
配慮事項		ハクセンシオマネキ生息地周辺では陸上からのつり下げ式で工事。カニ類の生息環境拡大をねらって護岸沿の一部に砂入れ	散策等の休憩場を設置。香椎宮の神事が行えるよう配慮	地元の要望を受けて階段式の護岸とした	干潟部の改変を避けるため陸上から工事。生物への配慮でカニが上れる構造や鳥の休息場を設置。江戸時代の旧護岸は埋込保存
環境面の効果	底生生物	・護岸間隙にケフサイソガニや貝類が生息 ・砂入れ部でもコメツキガニが生息	・養浜部に新たにハクセンシオマネキが生息。アサリなどが増加 ・石積部でケフサイソガニや貝類が生息	・護岸間隙に貝類が生息	・護岸間隙にカクベンケイガニや貝類が生息
	鳥	・変化なし	・砂浜周辺ではカモメ、カモ、シギ・チドリなどが見られている。	・変化なし	・鳥の休息場としての利用を確認
	人の利用	・隣接する公園とともに護岸沿いの遊歩道を散策するなど、海に親しむ機会が増えた。 ・設置された看板により、地区の歴史やそこに生息する生物に対する理解が深まった。	・遊歩道を散策するなど、海に親しむ機会が増えた。 ・養浜により海に触れる機会が増え、潮干狩りや磯遊びなどのレクリエーションを通して博多湾の自然を体感できるようになった。	・遊歩道を散策するなど、海に親しむ機会が増えた。 ・階段式護岸により安全に海へアクセスできるようになるとともに、海に触れる機会が増え、潮干狩りや磯遊びなどのレクリエーションを通して博多湾の自然を体感できるようになった。	・工事中のため未供用

２－４ゾーン毎の評価

施策実施効果の確認を踏まえると、各ゾーンは次のように評価できます。

(1)　御島ゾーン

計画していた整備はほぼ実施済みです。水質・底質の状態も整備前より改善され、生物の生息環境としても質の向上が見られており、海岸部の親水性も高まるなど整備の効果が確認されています。

(2)　香住ヶ丘ゾーン

計画していた整備はほぼ実施済みです。磯浜・砂浜は保全されるとともに、海岸部の安全性が向上し、親水性も高まっており、整備の効果が確認されています。

(3)　和白干潟ゾーン

計画していた整備のうち、塩浜の護岸整備のみ実施済みです。整備した護岸部では安全性が向上しています。

(4)　海の中道ゾーン

砂浜はそのまま保全されており、レクリエーション利用もみられます。

２－５とりまとめ（総括）

和白干潟ゾーンを除く３つのゾーンは、ほぼ当初計画どおり環境の整備・改善が進められており、各ゾーンの目標を概ね達成していました。未達成の部分(課題)を含めると次のように総括できます。

・御島ゾーンでは、地形的にコンパクトで事業効果の確認が比較的簡単であることもあり、覆砂・作れい・アマモ場造成のシーブルー事業、及び養浜などの海岸整備事業が集中的に実施され、整備前に比べて水質・底質や生物生息環境が向上するとともに、海岸部の親水性も高まって、多くの市民が利用する良好な空間が形成され、ゾーンのイメージである「歴史的要素を活かした憩いのゾーン」が実現できています。今後は、ソフト面での充実が期待されるところです。

・香住ヶ丘ゾーンでは、牧の鼻に見られる岩礁・磯浜が保全されるとともに、親水性護岸が整備されるなど、市民が海と触れあえる良好な空間が形成されています。
今後も環境の保全が望まれるところです。

・海の中道ゾーンでは、砂浜が保全され、市民が海と触れあえる良好な空間が形成されています。今後も環境の保全が望まれるところです。

・まだ一部しか整備を実施していない和白干潟ゾーンは、エコパークゾーンの中で最も自然豊かなゾーンであり、国内有数の野鳥の飛来地で国指定鳥獣保護区にもなっています。和白干潟の対岸のアイランドシティ北東部には野鳥公園の建設が予定されており、福岡市野鳥公園基本構想の提言内容を具現化するとともに福岡市新・基本計画に掲げる「豊かな自然環境と歴史風土を大切にする都市づくり」を推進していくためは、御島ゾーンでの検証結果を踏まえつつ、可能性の有無や費用対効果などを十分勘案し、更には、アイランドシティ側の自然環境をも活かしながら、水質・底質の改善をはじめ貧酸素対策等の環境保全・創造施策を早急に講じていく必要があります。

３．課題の抽出

エコパークゾーン整備基本計画に掲げる目標の達成状況等を基に、前章で「これまでの施策の総合評価」を行いましたが、現時点では、次のような課題も発生しています。

(1) 御島ゾーン

- ✓ 市民の利用が多いゾーンだが、和白干潟ゾーンと比べて環境学習等での利用が少ない。
- ✓ 散策や憩える空間として整備しているが、アオサが打ち上げられ悪臭が発生していることがある。

(2) 香住ヶ丘ゾーン

- ✓ 一部で海岸の崩落が見られる。

(3) 和白干潟ゾーン

- ✓ 水質、底質の状況は必ずしもよい状態にあるとはいえないが、現状では下水道改善施策以外に対策が実施されていない。
- ✓ 野鳥の飛来数が減少傾向にある。

(4) 海の中道ゾーン

- ✓ 和白干潟ゾーンに続く海域部であるため、和白干潟ゾーンの水質・底質などに少なからず影響を与えている。

４．今後の方向性

エコパークゾーンの環境をよりよい状態にしていくためには、前章で述べた課題を解決するための新たな取り組みが必要になります。

そこで、今後のエコパークゾーンに必要な取り組みの方向を表－５に示します。主なものとしては次のようなことが考えられます。

- ✓ 御島ゾーン、香住ヶ丘ゾーン、海の中道ゾーンについては、環境学習の機会の提供等、ソフト面での充実

- ✓ 和白干潟ゾーンについては、貧酸素対策を視野に入れた水質・底質改善対策、野鳥公園整備を視野に入れた豊かな自然環境づくりの検討等、ハード面、ソフト面両方の対策の検討・充実

表－５　今後の施策の方向性

ゾーン名		御島ゾーン	香住ヶ丘ゾーン	和白干潟ゾーン	海の中道ゾーン
今後の施策の方向性	ハード面 （土木工事や施設整備を伴うもの）		・崩落している海岸の安全性について検討していく	・海域部については水質・底質の改善、貧酸素対策、豊かな自然環境の保全・創造について検討していく ・整備にあたっては、景観管理に配慮する	・和白干潟ゾーンに続く海域部については水質・底質の改善、貧酸素対策について検討していく
	ソフト面 （土木工事や施設整備を伴わないもの）	・ワイズユースの視点を取り入れていく ・ラブアースなどのクリーン活動を今後も継続していく			
		・アマモ場をはじめとした多様な藻場の創出について検討していく ・海岸部での植生再生等についても検討していく ・御島の歴史的側面に加えて、豊かな自然環境も体感してもらえるよう、整備のPRと併せて、環境学習の場としての利用等について検討していく ・海岸に打ち上げられるアオサへの対応について検討していく	・岩礁や磯浜といった特徴的な自然環境を今後も保全していく	・ラムサール条約登録候補地であり、今後も豊かな自然環境を保全・創造していく ・干潟は将来へ引き継がれる財産であり、市民とともに保全していく ・干潟は環境学習の場等として利用されており、看板等の啓発・学習支援施設を充実していく ・歴史的建造物の保存や自然環境に配慮した構造などのPRを行っていく	・長い砂浜で昔からの風景が残されており、市民が活用できる空間として考えていく

※　ワイズユース（賢明な利用）：多様な生物の生息、水資源の供給、美しい景観の形成など自然環境が有している様々な価値の維持と両立させた方法で、人々の利益のために環境要素を持続的に利用すること

○　賢明な利用の例：バードウォッチング、環境学習、適切な潮干狩りなど